次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

東北広域次世代がんプロ養成プラン

地域がん医療次世代リーダー育成コース責任者

佐藤　温

（腫瘍内科学講座　教授）

　青森県は人口減・高齢化、そして若年層を含めたがん死亡率が最も高い地域です。しかし、これは本県だけが抱える問題ではありません。人口減・高齢化は今後の日本が抱える大きな問題であり、本県は日本の将来の最先端を走っている状況とも言えます。だからこそ、その対策を打ち出すモデル地区となることができるのです。地域におけるがん医療が抱える問題を解決するためには、がんに関わるすべての医療従事者の連携システムの構築と教育、そしてすべての世代の地域住民に対する教育が必要となります。その解決策として弘前大学では地域がん医療の向上を目的とした本コースを設けました。

本コースは、がん専門医の習得のみならず、地域がん医療のリーダーとして、自ら地域がん医療の取り組むべき課題を抽出し、地域のリソース、需要を受け入れ、多職種連携によるチーム医療のネットワークを構築する等、次世代のがんに関わる医療人を育成することができる人材の養成を目標とします。医学研究科医科学専攻大学院生として4年間、予防医療からゲノム医療そして終末期医療までの幅広い臨床過程を患者/家族の視点からコーディネートできる人材育成を目指します。外科手術、放射線治療、薬物療法、緩和医療までの全般的な知識を連携大学間の共有講義、演習実習等で十分に学習できる教育体制を整備しております。病院としても、がんゲノム医療拠点病院としての強みを活かし、次世代のがん医療となるゲノム医療の最先端の知識を学び、さらに、放射線科、病理診断科の協働で定期開催されているキャンサーボードの参加等、実臨床において幅広い知識と技術を獲得することができます。そして、地域社会への還元のために、教育技法を学び、行政との連携、各種企画の立案から開催までを通して、多くの医療者らと顔が見える連携ができる、個々人の素質を活かしたプログラムです。特に、がん領域における薬物療法を専門とする医師は、その必要性とは真逆に青森県ではかなり少数のため、がんの患者家族からは切望されています。医師として、最新の科学知識の習得と実践とともに、深い人間愛が求められるこの領域において、臨床、研究そして教育で活躍できることは、望外な喜びとなるはずです。是非、ご参加ください。